

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 5 日現在

機関番号：37402

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009 ～ 2011

課題番号：21652043

研究課題名（和文） 北朝鮮における「領導芸術」に現れる修辞法の研究：大衆管理の言語手法の解明

研究課題名（英文） Studies on North Korean Rhetoric of Indoctrination: Unveiling rhetorical methods of controlling the people

研究代表者

筒井 久美子 (Tsutsui Kumiko)

熊本学園大学・外国語学部英米学科・准教授

研究者番号：30352397

研究成果の概要（和文）：

北朝鮮の教科書には、金日成や金正日が必要不可欠・国父的存在であることや人民として取るべき模範の考え方や行動が、さまざまな修辞法（例えば、反復、説得、比較、非言語的描写、問答形式）を通して確実に学習できるようになっている。また人民は守られ幸福であることが、外国を否定的に描くことにより示されている。これらの修辞的技法は現在でも政治体制を継続するため、また人民の言動や思考を操作するために使われているのである。

研究成果の概要（英文）：

Textbooks in North Korea indoctrinate Kim Il Sung and Kim Jong Il's indispensable, fatherly figures and model behaviors and ways of thinking as a North Korean through various rhetorical devices, such as repetition, persuasion, comparison, nonverbal description, and questions and answers. Negative descriptions of foreign countries also contribute to constructing ideas of how North Koreans are protected by the government and how happy they are. Such rhetorical styles are used to maintain the current regime and control the people's behaviors and senses of thought.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	800,000	0	800,000
2010 年度	235,997	0	235,997
2011 年度	664,003	199,200	863,203
年度			
年度			
総計	1,700,000	199,200	1,899,200

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・社会言語学

キーワード：クリティカル・ディスコース分析、北朝鮮、教科書分析、金正日、修辞法

1. 研究開始当初の背景

クリティカル・ディスコース分析の研究は、個人間の対談から政治や社会的レベルでの

さまざまな文脈で言語を媒介としたディスコースの中に、どのような権力・政治・支配構造、差別構造の温存化、ナショナル・アイ

デンティティの確立、政治的信念、価値観、そして政治、商業、国益目的のために使われる作戦的手段が隠されているのかを解明するものである。国内では、アメリカ大統領やファースト・レディのスピーチ分析（村上, 2004; 山上, 2003）や、教育基本法「改正」案における日本人化や愛国心が生産・再生産されるレトリックの分析（青沼 & 臼井, 2006）などがある。国外の研究例としては、van Dijk（1987, 1993）の人種の偏見のディスコースの体系化の解明、Wodak のナショナル・アイデンティティの構築、破壊、生産、再構築の検証などがある（Cillia, Reisigl, & Wodak, 1999）。国外のクリティカル・ディスコースの研究はすでに理論的なフレームワークを諸問題に応用していく基盤を持っており、分野、アプローチ、対象が多様化していると言える（小柳, 2005）。

そのような中我々は、閉ざされた国、朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮）がどのようにディスコースを通して人民を支配しようとしているか興味を持った。北朝鮮の教科書の中で展開される物語の流れや独特な言い回し、論証のたて方に大衆の価値観やアイデンティティを形成し、行動を規制する技法が隠されているのではないかと考えるに至った。

2. 研究の目的

コミュニケーションの媒体として使用されている北朝鮮の教科書に注目し、レトリック（修辭的）戦略を探り、「領導芸術」と言われる大衆の行動を操作する方法を言語的に明らかにする。

3. 研究の方法

クリティカル・ディスコース分析の手法

- (1) 内容の熟読
- (2) カテゴリーの抽出
- (3) 理論化

4. 研究成果

(1) はじめに

北朝鮮は社会主義国家建設の初期段階で、国家が組織的に管理する学校教育体系を構築した。そして、国家機構は教科書の発行を独占し、さまざまな制度を通じて知識の伝達課程を統制している。例えば、教授目標および授業方式についての教師用指導案が人民学校や中学校そして大学に配布される。教師は教授要綱に従い授業ごとに授業案を作成し、教務主任と校長から決済を受け、決済後でなければ授業をすることができなくなっている。授業案作成の義務化と検閲を通して、教師が授業中に教科の内容を任意に解釈し伝達することを事前に防止しているのである（Li, 2000）。教育の内容には、市民を社会

主義社会に有用な人材に育てるための共産的価値観や信念、そして態度が含まれており、それらは金一家の世襲制度を継続させるために欠くことのできないものとなっている（Kim & Kim 2005）。我々がマスメディアを通して目にする市民の金日成や金正日に対する忠誠心や絶対的支持は、それが本意であろうとなかろうと、北朝鮮の教育そのものなのである。本研究では、朝鮮語と英語の教科書を対象にして、金日成や金正日親子の偶像化や現在の政治体制を維持するために国家が必要とする人材形成がいかなる言語的修辭法を用いて体現されているのかを探る。

(2) 『偉大なる領導者金正日の子供時代』

朝鮮語で書かれた 1989 年から 2005 年に出版された小学 1~4 年の教科書『偉大なる指導者金正日の子供時代』を分析した結果、反復、説得、比較、非言語的描写、問答形式などの修辭法が抽出された。これらの修辭法は、北朝鮮の国家・国民における金正日の必要不可欠存在、北朝鮮国民が金正日に対し、また北朝鮮の人民として取るべき画一化された考え方や行動を確実に学習できるよう使用されていた。教科書には金正日が北朝鮮の最高指導者として君臨するに値する偉大な人物であるということが、幼いながらに発揮される彼の指導力や知的能力を描写したエピソードを通して確固たるものにされていた。また、人民としていかに考え行動すべきかについての模範的姿が金日成への忠誠心を表す金正日の言動を通して顕著に描かれており、学習者は教科書に描かれた金正日の言動を通してその人物像に触れると共に、首領父子のために人民は何をすべきか、いかに喜ばせられるかといった模範的人民像を学べるようになっていた。さらに、金正日が国家だけではなく国民一人ひとりを思いやる、偉大な存在であることが、戦争孤児や傷痍軍人、貧困生活者などの社会的弱者に対する金正日の手厚い施しに関する記述を通して描かれている。これにより彼が一般国民から遠い存在にあるのではなく、北朝鮮国民一人ひとりを常に気遣い、精神的に支えてくれる、国父に値する人物であるということを示唆する。この国父的存在の強調は、学習者が将来抱くかもしれない社会的な不平不満を幼少期から摘み取る役割を果たすと考えられる。

さらにこれらの教科書は読者の想像力、自由な解釈、複数の視点、既存知識を広げる自由な発想を許さない構造となっている。単純明快な描写、文体、言葉、比較を用いて最終的に導かれるものは金正日に対する絶対的評価である。書き手が描く揺るがせられない信念をそのまま読者がテキストを通して学ぶようになっている。読者に違う解釈や疑問を与

える抽象的表現や、予測不可能な展開は見られない。書き手が対象とする読者は協力的で従順に描かれ(結果、そうなるよう求められ)、書き手が思い描く金正日に対する畏敬の念、敵国に対する憎しみをそのまま伝授され、北朝鮮の子としてどう感じ、考え、行動するべきか学ぶのである。

(3) 英語教科書に現れる北朝鮮

次に1999年から2002年に出版された高等中学校の英語教科書(1~6年)の読解を分析し、北朝鮮において英語がどのような目的で扱われ、英語を通して何をどのような方法で訴えようとしているのかを探った。すべての教科書の序文は外国語の学び方について助言する金正日の言葉で始まる。そして彼の助言に基づいて、どのように教科書がどのように構成されているのかが紹介され、「朝鮮革命のため」に英語を学ぶという目的が明確に定められている。1~3年の教科書には基本的な文法や練習問題が絵とともに多く収められページ数が多い(平均約191ページ)。それに比べ4~6年教科書のページ数は減り(平均訳125ページ)、読解で政治的なメッセージが目立ってくる。英語の語彙数や文型のレベルが上がり読解の内容が複雑化すると共に、北朝鮮に対する国民的感情や意識、また外国に関する記述が増えている。しかし読解の量の増加、文体の複雑化と裏腹に、内容はとても限られたものとなっている。読解の内容はおおまかに北朝鮮の話題、外国についての話、外国由来の民話、その他(科学など)に分けられる。ここでは北朝鮮と外国に関する読解を中心に分析する。

北朝鮮と外国について記述されている読解を中心に分析した結果、3つのイメージが浮かび上がった。それらは①文武両道で忠実、そして幸せな北朝鮮の学生、②実り豊かで美しい北朝鮮、③人民を守る国、北朝鮮である。

① 文武両道で忠実、そして幸せな学生

『偉大なる領導者金正日の子供時代』でも見られたように、「北朝鮮の子としてあるべき姿」が英語教科書でも描かれている。教科書に登場する北朝鮮の学生はみな幸せを感じ、勤勉で、礼儀正しく、奉仕精神に満ちている。Baik(1995)も指摘するように、現実を人為的に加工し、幸福のイデオロギーを吹き込むことは、現在の政治体制を支持してもらい、社会体制を維持するために必要不可欠なのである。現実を装飾した世界に浸らせるためには教育が必要のため、英語教科書でも登場する学生は皆勤勉なのである。さらに、指導者金正日や金日成に対する忠誠心は、特別な時に感じるのではなく、日常生活の中で常に感じられるように描写されている。

② 実り豊かで美しい北朝鮮

北朝鮮に関する読解は肯定的な単語(e.g. beautiful, good, bright, shining)が使われ「春」を中心に描写されている。「春」は太陽節(金日成の誕生日)と呼ばれる祝日もあることから、人民が一番好きな季節として登場する。そのため教科書に描かれる北朝鮮の風景は平穏で明るい。果樹園では小鳥がさえずり、果物の木にはつぼみが咲き、生命の息吹が感じられる。農場では田植えの準備で忙しい人や、さまざまな種類の家畜を世話する人が描かれ、食物の豊かさを感じる。また、工場見学の読解からは製品が国内だけではなく国外にも輸出され、世界からも必要とされていることを印象づけている。

③ 人民を守る国、北朝鮮

最後に、北朝鮮は人民を守る国であるということが、外国の話と比較されながら描かれている。例えば、アメリカの貧困や失業、病や社会階級の差、そして差別に苦しんでいる人々の様子を描くことによって、いかに北朝鮮の人々がみな教育や仕事そして住居を与えられているかが強調され、民主主義に移行したロシアでの赤ん坊を置き去りにする例を挙げることによって、いかに共産主義を維持することが大切であるかが説かれている。

(4) 北朝鮮における外国の役割

『偉大なる領導者金正日の子供時代』と英語教科書にはどちらも外国が登場する。『偉大なる領導者金正日の子供時代』では、日本は敵国として、過去国を守るために命を捧げた愛国者、革命家、人民を称える際や金正日の母親や反日武装グループの功績を強調する際に登場し、アメリカは南朝鮮に駐留する現在の敵、憎むべき存在として表されている。

英語の教科書では練習問題を含むさまざまな国が登場するが、読解に登場する国はアメリカ、イギリス、韓国(教科書では「我が国の南方」と記されている)、ロシア(旧共産主義国と記されている)で、その中でもアメリカが一番多い。アメリカは資本主義の脅威を植え付けるため、日本は侵略者に対する過去の怨恨を彷彿させるため、ロシアは共産主義を維持する大切さを教えるため、韓国は帝国主義に支配される現在の苦しみを裏付けるため、そしてイギリスは雨の多い住みにくい国として登場している。

「外国」に関する記述において言えることは、北朝鮮はそれを必要としているということである。過去の日本の侵略を語ることで金日成の偉大さを現実のものにし、アメリカに対する憎しみを強化することで、南方ではいまだに侵略に苦しんでいる同胞がいることを強調する。外国の否定的な描写は、北朝鮮の人民が恵まれた状況にいるという安心感

を与え、金正日が人民に施す恩恵や保護に感謝し、現状の厳しさに対する忍耐力を養うことに貢献していると言える。その意味では「外国」は記述されていることが真実であろうとなかろうと、北朝鮮の人民教育にとって、ナショナル・アイデンティティー確立のため、そして現在の政治体制を維持するためになくはならぬ存在となっているのである。

(5) まとめ

教科書の言語こそ異なれ、『偉大なる指導者金正日の子供時代』と英語教科書が伝えようとしているメッセージは同じである。どちらも金日成と金正日を称え、北朝鮮の子としてふさわしい言動を伝授し、北朝鮮がいかに幸福な国であるかを描いている。そしてそれらには二重に読者を無批判にする装置が備わっているといえる。1つ目の装置が、教科書の内容に含まれる「幸福のイデオロギー」である。北朝鮮の子は金正日から多大な恩恵を受け、守られている、世界一幸せな国民である、と信じ込ませることによって、読者は自分たちが虐げられているという現実には直視できなくなる。Freire (1998) が呼ぶこの“banking education”では、迫害者は家父長的な扱いを一般市民に示せば示すほど、市民は恩恵を受け取っていると感じ、批判的意識が減少し、ますます抑圧される (Li, 2006)。つまり、「幸福のイデオロギー」自体に、読者の想像力や批判力を鈍らせ、読者を機械的な受信者に変える力が潜んでいるのである。

もうひとつの装置は単純明快であいまいさを残さないイデオロギーの伝え方である。閉鎖的である“closed texts”は単純で直接的、強制的、そして反復的なメッセージや原理を用いることにより、読者の期待や解釈を制限し、既存知識からはみ出ることなく、書き手が描く世界を理解しあらかじめ決められた反応を起こす (Luke, 1989)。政治的メッセージを伝える際に使われた修辞法や構造は、読者に書き手とは異なる解釈をさせず、書き手が示す世界を読者にそのまま見せるようになっている。何度も繰り返される話の展開や結末は読者にとっても予測可能になるため、正しい解答は限られてくる。教科書が示す通りでしか物事を考えられなくなると自己の判断力が鈍り、他の世界を見出せず単眼思考になり、言われるままのこと、語られることをそのまま受け止めてしまい、無批判になるのである。

この二重に固められた言語装置は「指導芸術」のひとつとして特徴づけられるだろう。金親子の偶像化が可能になるのは、理想的人民の間であり、その理想的人民というのは教科書を通して想像力や批判的態度を奪われた者なのである。

5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 3 件)

- ① Kumiko Tsutsui & Judy Yoneoka, Images of English, Foreign Countries, and Ideal North Korean Citizen in Two North Korean English Textbooks, IAICS, 2012, Taiwan
- ② Kumiko Tsutsui & Judy Yoneoka, Exploring Images of North Korea, Japan and South Korea in North Korean English Textbooks, 国際学術交流研究報告会、熊本学園大学
- ③ 筒井 久美子、北朝鮮の小学校教科書に見る金正日偶像化のための修辞法分析、九州コミュニケーション学会、2009、放送大学鹿児島学習センター

6. 研究組織

(1) 研究代表者

筒井 久美子 (Tsutsui Kumiko)
熊本学園大学外国語学部・准教授
研究者番号：30352397

(2) 研究分担者

矢野 謙一 (Yano Kenichi)
熊本学園大学外国語学部・教授
研究者番号：00271453

(3) 連携研究者

()

研究者番号：